

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 6月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334 (電話) 011-775-0505		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年6月5日	評価確定日	平成21年6月19日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 23日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算 11.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	光熱費(4-9月) 9,000 円	
敷金	有(円)	無	(10-3月)12,000 円	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

### (4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院、健全会篠路山田歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の自然豊かな広大な敷地に立地し、高齢期を過ごすにふさわしい、閑静な生活の場を提供している。協力病院や同一法人のグループホーム始め、各種の高齢者施設が多数並ぶ中の一つで、管理、運営、職員教育の面などで大規模法人の強みを活かしながらも、事業所独自の特色ある運営が行われている。建物の外観はログハウス風、内装は木のぬくもりをたっぷり取り入れ、廊下、リビング、浴室などいずれも広々としたスペースで、明るくのびのびした雰囲気満ちている。近隣小学校との付き合いや施設行事への住民招待など、地域とのつながりには熱心に取り組んでいる。経験豊かな管理者の下に、職員の士気も高く、家族からは厚い信頼が寄せられている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目②	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム便りを創刊し、生活ぶりや職員の異動などを的確に連絡する形が確立したほか、専門家による栄養管理は実施の方向で進んでおり、老人会への参加、職員の育成、同業者との交流、馴染みながらの利用、災害対策なども取り組みによって改善の途上にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	全職員に様式を配布し、記入を求めた上で管理者がまとめて自己評価を作成した。回を重ねるごとに職員の理解も深まり、日ごろの業務や介護のあり方に対する認識を新たにすよい機会として、また職員を指導する手がかりとして有益に活用されている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目④	運営推進会議は近隣の法人内グループホーム合同で3ヶ月に1回のペースで開催され、認知症評価、食事の方法、夏祭りなどの行事、外部評価結果、医療連携などをテーマに事業所側から提供された話題を中心に討議され、参加者から多種多様な意見が出され、運営の参考にされている。参加者から、会議の意義が不明確との声も出され、より有意義な会議への前進の足がかりも見られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	事業所の苦情相談窓口を管理者に定め、法人の中に第三者委員が配置され、外部の受付機関も明示して、受け入れ体制は整えられている。大きな不満や苦情の事例はないが、日常的な要望については誠意をもって対応し、日誌や個人記録に記載し改善に役立っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し夏祭りに参加しているが、利用者の身心機能の状態などにより、機会は限られている。近隣の小学校と交流があり、児童が来訪したり学校行事に招かれたりしている。事業所の行事には近隣の親しくしている住人を招いて交流している。老人会へ参加できる体制にはなっているが、利用者の実情で実現していない。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念の下にグループホームの施設理念として、家庭的な雰囲気の中で支えあい、地域の中でその人らしく生活できるケアを提供する、という方針を掲げている。さらに、生きがい、安心と笑顔で仲良く、など4つのホーム目標を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は施設内の玄関ホール、リビング、台所、職員休憩室などに掲示され、カードにして職員が持ち歩くなどの形で職員が絶えず目にできるような工夫がなされている。新任職員には理念についての教育を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して夏祭りに参加しているが、利用者の身体機能の状態などにより、機会は限られている。近隣の小学校と交流があり、児童が来訪したり学校行事に招かれたりしている。事業所の行事には近隣の親しくしている住人を招いて交流している。老人会へ参加できる体制にはなっているが、利用者の実情で実現していない。	○	町内会などの活動にもっと幅広く参加することを考慮中とのことなので、その実現に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に様式を配布し、記入を求めた上で管理者がまとめて自己評価を作成した。回を重ねるごとに職員の理解も深まり、日ごろの業務や介護のあり方に対する認識を新たにするよい機会として、また職員を指導する手がかりとして有益に活用されている。外部評価の課題には確実に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は近隣の法人内グループホーム合同で3ヶ月に1回のペースで開催され、認知症評価、食事の方法、夏祭りなどの行事、外部評価結果、医療連携などをテーマに事業所側から提供された話題を中心に討議され、参加者から多種多様な意見が出され、運営の参考にされている。参加者から、会議の意義が不明確との声も出され、より有意義な会議への前進の足がかりも見られている。	○	会議の意義を参加者によく説明し、理解してもらうことによって、より一層有意義な会議に発展させることを期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所では必要な事務連絡、手続きなどの範囲にとどまっているが、広範囲な連携は法人内のグループホーム統括管理者に集約されている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の外部評価により「ホーム便り」を創刊し、年に4回発行している。これによりホームの様子、生活ぶり、職員の異動、顔ぶれなどが伝えられている。家族来訪時には詳細を報告し、必要に応じて電話や手紙による連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談窓口を管理者に定め、法人の中に第3者委員が配置され、外部の受付機関も明示して、受け入れ体制は整えられている。大きな不満や苦情の事例はないが、日常的な要望については誠意をもって対応し、日誌や個人記録に記載して改善に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を尊重して事業所間の異動は最小限に抑えられている。退職などによるやむを得ない異動があった時は、可能な限り新規採用者との1ヶ月ほどの引継ぎ期間を設けている。ダメージの心配される利用者には職員が手厚く接触し、ケアを図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の学習会が2ヶ月に1回程度開催され、全職員に対して基本的な教育の機会が整っている。法人内のグループホーム同士、他種施設との交流による研修が開始されつつある。外部研修については勤務扱い、費用の面で援助し、希望に沿って年間通算6人ぐらい派遣している。	○	外部研修についてはなお積極的な育成指導の立場から計画的に機会を増やしてゆくよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム管理者会議などで同業者と交流の機会があり、ネットワーク作りもできる環境にあるが、一般職員は北区管理者会議主催の意見交流会に参加する程度で、機会は少ない。法人内で職員の相互訪問を昨年1回実施し、今後拡大してゆく方針である。	○	まずは法人内同業者の相互訪問を拡大するとともに、法人外との交流にも手を広げ、サービスの質の向上が図られるように期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立ち、家族はもとより本人にも見学を奨めてはいるが、病院や他施設に入院入所中の場合、あるいは本人の事情により実現しないケースも多い。入居に際してはできるだけ使い慣れた家具、衣服類を持参するよう依頼し、本人には孤立しないよう、頻繁に声かけをするなどして馴染みの形成に配慮をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、繕い物、洗濯などに伴う各種の家事作業や畑仕事など役割分担を積極的に依頼して共同生活の実を作っている。また、職員が疲れているとき、元気をなくしているときなどには利用者に慰められ励まされることで大いに支えられている。深い人生経験から学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部、センター方式を活用しながら本人の意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合でも、生活歴、性格の把握、日常会話や投げかけに対する反応、独自の行動パターンなどから思いや意向を把握するように努めている。ノートに書いたもので意外な思いを知らされることもある。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者が可能な限り本人や家族の意見や要望を参考にし、職員会議で話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を3ヶ月または、6ヶ月と定め、職員間で十分な話し合いをして見直しをしている。但し、利用者の状況が変化した時、例えば、入院や病気など体調が変わった時など、介護計画を現状に沿うように検討し作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が協力病院以外のかかりつけ医を利用している場合は、通院介助を支援している。既に入院による退所者が外出でホームへ来訪を希望し支援して実現した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の定期的な往診医師による受診と、本人や家族の希望によるかかりつけ医の受診などいずれも、事業所と連携をとりつつ適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」について説明をし、確認を得ている。状況に応じて適切な対応がとれるような体制になっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者に添って言葉かけや対応などプライバシーを念頭におきながら日々取り組んでいる。記録の管理なども、持ち出し禁止、保管場所などに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、性格や介護度の差異などを把握して、その人らしい暮らし方を受けとめて支援している。日常的な体操なども無理強いしない配慮がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂のスペースはゆったりとし、馴染みのテーブルで和やかに食事をしている。個々の能力に応じて介助や見守りなど細かい支援がされている。また、準備や片付けなど利用者のできる作業への参加が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりとした浴室で利用者は週2回を目途に入浴している。拒む利用者には様々な工夫で誘導し支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や楽しみごとを見出し、ホームの中で役割として継続して取り組んでいる。また、家事の分野で台所の手伝い、掃除、洗濯、畑仕事など生活歴を考慮した支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその日の希望に沿うように散歩や敷地内散策など可能な限り外出を支援しているが、外出が困難な場合は室内からの眺めで気分転換を図っている。敷地内に鶏や犬を飼っているなど利用者の楽しみとなっている。外出の行事も年に数回実施している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放的で日中施錠はしていない。一階に2ユニットがL字型に配置され、見通しが良い造りになっている。玄関前には犬がいて番犬の役割を果たしている。職員は施錠しないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害のマニュアルや連絡網はあり、非難訓練は年2回実施されているが、消防署との連携はなされていない。また、夜間想定訓練は実施していない。地域との協力体制が不十分である。	○	法人内の施設や近隣の施設と連携を取るのみでなく、消防と連絡をし、協力を得て実施することが望ましい。また、夜間想定訓練も検討されることが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現時点では献立作成時にカロリー計算などはなされていないが、水分摂取や食事量は把握している。献立作成から一連の食事への前向きな見直しをホームとして取り組み検討中である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい採光が居間を中心に天窓からも取り入れられ、全体的にゆったりとして、落ち着いた共用の空間になっている。テーブルが数名で利用するように配置され、椅子やくつろぎの場も利用者本位に配慮されて、居心地良く過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの仏壇や家具が設置され、トイレ、洗面台が内部にあってプライバシーに配慮がある。また、入口には表札がかけられ、自分の部屋として落ち着いた佇まいとなっている。のれんをさげて特徴を出した工夫もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。